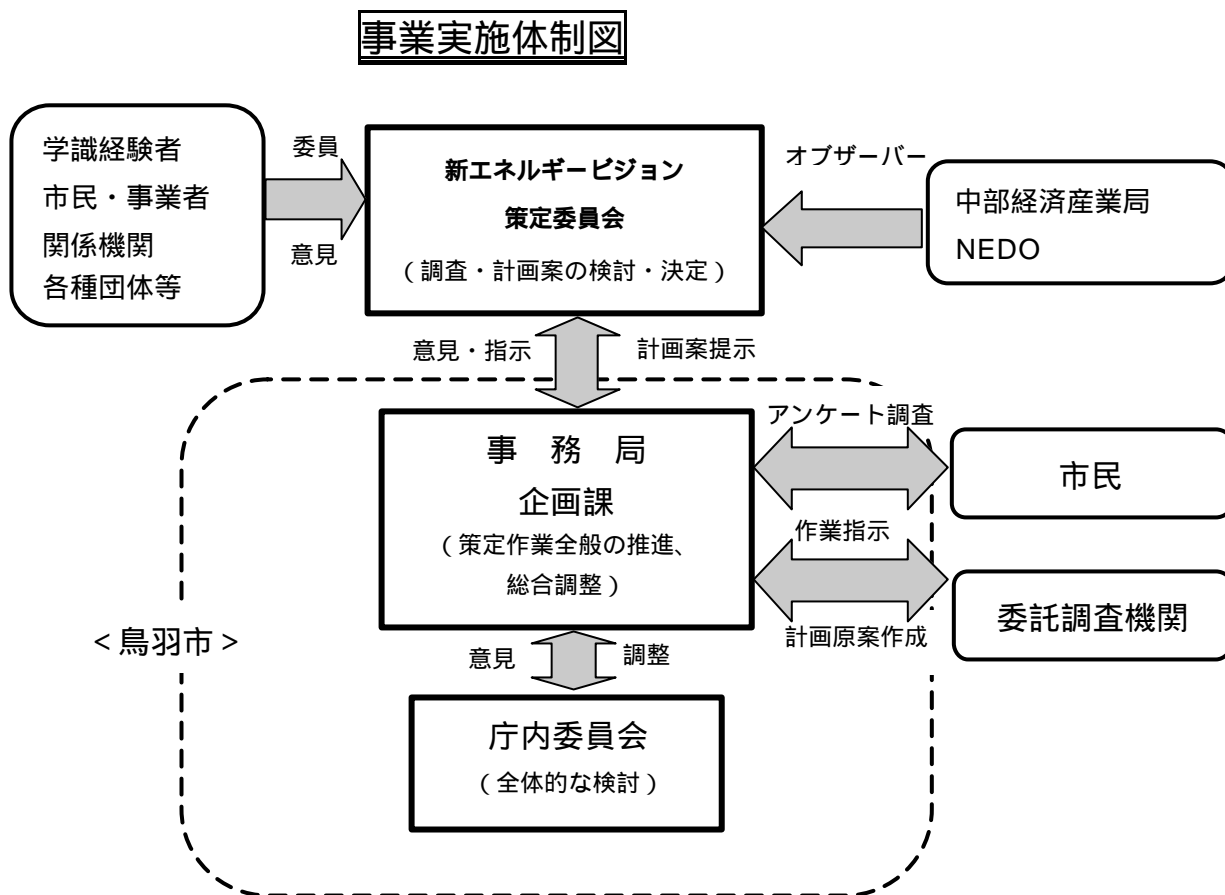


# ■ 資料編

# 資料1 . ビジョン策定の経緯

## 1) 事業実施体制

- ・事業実施体制は、下記体制図のとおり
- (事務局)
  - ・事務局を、企画課企画調整係に設置
- (策定委員会)
  - ・ビジョン策定にあたって、多角的な検討、評価を実施
  - ・4回開催(先進地調査を1回実施)
- (庁内委員会)
  - ・策定委員会の下に庁内委員会を設置
  - ・庁内委員会については、各関係所属長で構成し、全体的な検討を実施



## 2) 策定委員会・庁内委員会について

### 鳥羽市新エネルギービジョン策定委員会委員

氏名	団体所属・役職等	備考
前田 太佳夫	三重大学工学部機械工学科 エネルギー環境工学研究室教授	委員長
山西 元	鳥羽市自治会連合会	副委員長
清水 清嗣	鳥羽商工会議所専務理事	
穴倉 秀明	戸田家	
坂田 吉弘	中部電力株式会社 伊勢営業所	
木下 為一	NPO法人 G&R 会長	
森下 典也	鳥羽市立菅島小学校教頭	
久世 憲志	三重県総合企画局特定政策室長	
木村 和夫	中部経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長	オブザーバー
藤井 昌彦	新エネルギー・産業技術総合開発機構 エネルギー対策推進部主査	オブザーバー

事務局	鳥羽市企画課
-----	--------

### 鳥羽市新エネルギービジョン庁内委員会委員

職名	氏名
企画課長	野村 憲幸
総務課長	木田 正治
環境課長	下村 一登
商工観光課長	山本 実
農林水産課長	濱口 光寿
まちづくり課長	中野 茂
建設課長	片岡 直博
教育委員会総務課長	細江 信茂

### 3) 策定経過

#### ビジョン策定の経過

年月日	項目	内容
平成 17 年 10 月 14 日	第 1 回策定委員会 <sup>1</sup> 庁内委員会 <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥羽市新エネルギービジョン策定の目的</li> <li>・新エネルギーの概要と策定の意義</li> <li>・新エネルギーにおける三重県の取り組み</li> <li>・新エネルギーについて               <ul style="list-style-type: none"> <li>・風力発電について</li> <li>・市内企業の取り組み事例について</li> </ul> </li> <li>・ビジョン策定事業実施計画</li> <li>・市民等アンケート調査(案)</li> </ul>
平成 17 年 10 月 28 日 ～ 11 月 11 日	市民アンケート調査実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥羽市民 1000 人を対象とした、新エネルギーの実状、導入意向等を聞くアンケート(回収数: 451)</li> </ul>
平成 17 年 10 月 28 日 ～ 11 月 11 日	小学生アンケート調査実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の小学 5 年生及びその保護者を対象とした、省エネルギー・新エネルギーへの理解を深めるためのアンケート(回収数: 228)</li> </ul>
平成 17 年 10 月 28 日 ～ 11 月 11 日	消費実態アンケート調査実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の家庭におけるエネルギーの消費実態を調査するためのアンケート(市職員(52 人)を対象として実施 回収数: 52)</li> </ul>
平成 17 年 11 月 11 日	第 2 回策定委員会 庁内委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥羽市の概況について</li> <li>・エネルギー消費量の推計(中間報告)</li> <li>・新エネルギーの利用可能性(中間報告)</li> <li>・新エネルギーの導入の留意点や基本的方向について</li> </ul>
	先進地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青山高原に設置されている、久居市直営の風力発電施設(750kW×4 基)及び青山高原ウィンドファーム(750kW×20 基)</li> <li>・コマツ三重(伊勢市)の BDF(バイオディーゼル燃料)精製装置 次ページに概要を示す。</li> </ul>
平成 17 年 12 月 22 日	第 3 回策定委員会 庁内委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 回策定委員会の振り返りについて</li> <li>・アンケート調査結果の概要報告について</li> <li>・エネルギー消費量の推計について</li> <li>・新エネルギーの利用可能性と導入シナリオについて</li> </ul>
平成 18 年 1 月 13 日 ～ 1 月 23 日	事業者(旅館)アンケート調査実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の宿泊業者を対象として、BDF の利用可能性など新エネルギーについての現状と意見を聞くアンケート(鳥羽市旅館組合連絡協議会加盟旅館のうち、収容人数 50 人以上の旅館全数 回収数: 30)</li> </ul>
平成 18 年 1 月 30 日	第 4 回策定委員会 庁内委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者アンケートについて</li> <li>・ビジョン(案)について</li> </ul>

1 : 「鳥羽市新エネルギービジョン策定委員会」の略称

2 : 「鳥羽市新エネルギービジョン庁内委員会」の略称

## 先進地調査概要

### 先進地調査 1：青山ウィンドファーム調査

#### < 概要 >

- ・青山高原に設置されている、久居市直営の風力発電施設（750kW×4基）及び青山高原ウィンドファーム（750kW×20基）の調査。
- ・久居市企画課の方から説明を受けたのち、風車の見学を行った。

#### < 説明 >

- ・大型車が通行できる県道があるという道路条件、航空自衛隊のレーダー施設があることから送電線の条件が良かったこと、平均風速 7.6m/s という風況の良さで有利であり、NEDO 補助の第 1 号である。
- ・平成 11 年に市直営で 4 基、平成 15 年に久居市、伊賀市などの第 3 セクターで 20 基設置。
- ・市直営の 4 基については、本体工が 8 億 7500 万円、付帯設備工が 6450 万円。半分を補助で行っている。残りは地方債などである。年あたり 9500 万円の発電益があり、地方債は 17 年償還である。
- ・設備利用率は 28～29%と良好である。

#### < 質疑応答 >

最初に 4 基建てるときの市民の反応はどうであったか。

最初はどのようなものか検討がつかない状況であった。その中で総論賛成、各論では意見が出るという状況であった。ウィンドファームの時は、採算がとれれば良いのではないかという反応であった。現在は、市の生徒の全員が風車を見たことがあると答えており、教育効果もあるのではないか。

施設管理はどうしているか。

企画課で 1 人当てている。保守点検等は業者に委託。

飛行機への対策は。

別途航空障害塔を設置している。



### 先進地調査 2：コマツ三重調査

#### < 概要 >

- ・コマツ三重（伊勢市）において、BDF（バイオディーゼル燃料）精製装置の調査。
- ・BDF 精製装置を同社の方の説明のもと見学。その後、同社会議室において詳しい説明を受けた。

#### < 説明・質疑 >

- ・8 時間で 100 L 精製可能なものでは 1 台あたり 660 万円である。
- ・騒音はモーター音がする程度でほとんどない。日々のメンテナンスとしては、コモンレールが詰まるので交換が必要な程度である。
- ・BDF は黒煙が軽油の 1/10。海外ではベンツが BDF 専用のキットを出している。冬場は燃料タンク中が結露するのでフィルタ詰まりの原因となる。
- ・廃油あつてのものであり、どのように集めるかが課題である。
- ・また、不純物が心配であったが、現在協力して自治体回収を実施しているところでは今のところない。二見町では、当初自治会長さんに立ってもらった。金曜日に回収容器を設置し、月曜日に回収する。
- ・副生成物のグリセリン（投入廃油の 1 割）は、現在産廃処理業者が回収し、セメントの増燃剤として利用している。また、家畜ふん尿などのメタンガス精製（バイオガス）の発酵促進剤としても利用でき、そのように使っているお客さんもいる。

